

「農業技術の匠」：^{こうざい たつお}香西 達夫 さん（岡山県総社市）

～ 排水対策と太陽熱消毒による有機ニンジンの安定生産技術 ～



〔香西 達夫さん〕

1 技術確立の背景(目的)

有機農産物のニーズは高く、市場や卸売業者などからは安定した量を長期間出荷するように求められています。しかし、有機農法による栽培は難しく生産が安定しないことや、手間がかかるため一般的に大面積の経営は困難です。香西さんはニンジンに経営品目を絞り、技術の高度化と施設・装備の集約を図り、大規模経営を可能にしています。

2 技術概要(技術効果)

ニンジン栽培で課題となる土壌病害、過湿、品質低下、雑草対策や、規模拡大、周年出荷体制の確立のため既存の技術に改良を加えたり、独自に技術開発を行い、大規模安定生産を可能にしています。具体的な技術内容は以下のとおりです。

- (1) 畝立後太陽熱処理：畝立てと同時に透明フィルムを張ることで太陽熱処理の効果を高め、土壌病害の発生防止、雑草抑制を実現しています。
- (2) 徹底した排水対策：明渠・暗渠・高畝栽培により土壌病害や岐根を防いでいます。
- (3) 大型機械の利用や独自開発農具等：大型機械作業体系の確立やトラクター装着型大型トンネル設置機、草削り機の開発で作業効率を上げ、限られた人員、面積を最大限に利用しています。

このような工夫を重ねることで、ほ場の実面積 4 ha に対し、のべ面積を 5.6 ha にし、年間 8 か月の長期出荷を実現しています。

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

香西さんが代表を務める(有)吉備路オーガニックワークでは農薬を一切使用しない栽培方法でニンジンの大規模経営を行っており、また、有機 JAS やおかやま有機無農薬農産物の認定を受けており、県下最大の有機ニンジン栽培面積を誇っています。病害虫および雑草対策、省力化によってさらに面積の拡大が可能になっています。また、これらの技術は近隣の有機ニンジン栽培にも普及し、また、(有)吉備路オーガニックワークで研修を受け独立した生産者にも受け継がれています。一方、平成 21 年に設立した総社市有機農業推進協議会でも中核的な役割を果たし、地域ぐるみでの有機農業の拡大を進めています。

また県内外からの視察者や学生等の研修受入も多く、その経営手法や技術の普及が進んでいます。



〔ニンジンのは種作業〕

※最寄りの普及指導センター { 岡山県備中県民局農林水産事業部倉敷農業普及指導センター
住所：岡山県倉敷市羽島 1083
TEL：086-434-7028

